

みうらトーク&トーク 平成 28 年度第 5 回

日 時

平成 29 年 3 月 12 日(日)

18 時～19 時

参加者

MISAKI ぐるぐるまつり実行委員会

テーマ

MISAKI ぐるぐるまつりの活動について

三浦市長あいさつ

MISAKI ぐるぐるまつり実行委員会

委員長あいさつ

<意見交換・概要>



市民

なぜこの祭りを始めたのかというと、私はものづくりのワークショップをやる趣味があり、それを三崎で開催するにあたって、お休み中のお店をお借りすることができた機会がありました。そのときに、せっかくワークショップを開催するのであれば、お客さんがもう少し三崎で楽しんで、遊んで帰ってもらえたらいいなと思ったのがきっかけです。その後、三崎の町で漁村を楽しんでもらう仕掛けを考えようと決めたのはいいんですが、どんなコンセプトにしたらいいのかすごく悩みました。日ごろ三崎に遊びにくる立場として、それまでは私自身マグロを食べにくるという気持ちがあり、ほかのお店には一切行かず、飲食店で食べたらすぐに帰るという状況でした。しかし、知り合いができていろんなお店に行くと、新しいお店がいっぱいできて、なにかあたらしいことをやろうっていう人がいっぱいいて、「この町は面白いことをやっているんじゃないか」と感じました。

私が考えるに、一般のお客さんの傾向としては、「みさきまぐろきっぷ」で三崎に来て、うらりで買い物をして、マグロを食べたらもうお昼ぐらいに帰ってしまう。せっかくいいお店があるのに、とつてももったいないと思います。三崎の滞在時間をのばせば、みさきまぐろきっぷで来た人も疲れたらほかのお店でお茶を飲んだりするだろうし、夕飯は違うものを食べて帰ろうかという気になるのではないのでしょうか。三崎で滞在して、ぐるぐるいろんなところを食べたり遊んだりして、これまでのマグロだけのイメージではない魅力を知ってもらいたいということから 1 回目を開催しました。アンケートをとり、面白かったという声が結構いただきました。三崎の地元の人も、「実はあのお店新しくできていたけど行ったことなかったんだよ」とか「今回のぐるぐるまつりのおかげで新しいお店に入ることができました」という発見をしていただけたり、「面白いお祭りだったので自分も参加したい」「何か手伝えることがあれば

ボランティアします」というような方が個人的にメッセージをくれたこともあります。そこで、1 回で終わらせてしまうのはもったいないと、その年の秋にもう 1 度開催しました。そこまでは割と小規模だったんですが、参加店が増えるにしたがってスタッフも必要になり、3 回目は若いメンバーも増え、そして今回の 4 回目となります。以上が経緯です。

市長 ありがとうございます。皆さんの横のつながりはどういったものなんですか？

市民 横のつながりは、ワークショップなどをやっている関係で、MISAKI MARKET という骨董市を毎月 1 回開催しているのですが、その出店者として参加させてもらい、三崎の仲間が増えていき、協力してもらうようになりました。

市長 おっしゃるように、市としまして「みさきまぐろきっぷ」はヒットしました。ご参加いただいたマグロのお料理屋さんに行って、多少ビールを飲んで、バス・電車で帰っていく。いろいろ施設の優待券などもあるけれど、下町商店街とかにもう少し滞在してもらえるような動きをしなくちゃいけないね、という話はいつもしています。

みさきまぐろきっぷ自体は京急さんが考えて行っているのですが、地元で長い間商売をされている方々というよりも、三崎を好きになっていただいて、入り込んでくれている方々がお声をかけてくれて、地元の方と一緒にやってきているということが最近顕著に多いじゃないですか。

商店街の皆さんにいろいろお話はされているのですか？

市民 銀座通り商店街は月に 1 回必ず定例会があります。しかし実際は 10 分程話したらもう飲み会になってしまいます。話す内容も、例えば今度ぐるぐる春まつりがあって、少しだけ内容をこうでこうでと説明する報告会でしかありません。以前から商売をしている商店街の方たちはたいして困っていないので、そんなに新しいことはしたくないのではないのでしょうか。けれど、毎月 1 回必ずみんなが集まってディスカッションをしていく中で、いろんなことが分かるので無駄ではないと思いますが、次のステップに進まないといけないというのが現実だと思います。

理想なんですけど、全商店街が本気になって、「どうすればいいのか」というところを各商店街が話し合い、本当にその話をすべきだと思います。今回のお祭りは若い子が、これまで声をかけてこなかったお店に突撃し、参加店がどんどん増え、86 店舗にまでなったけれど、これはすごいことだと思います。まったく何の先入観もなく、こんなことをやるんですけれどどうですか？って言ったことが良かったんです。頭から「商店街はこうしなきゃいけないんだ」という話になってしまうと喧嘩になるだけなので、徐々に、焦らず、僕らみたいな転入者と若い子たちが立ち上がって話をしていければと思います。これはイベントでやりますが、本当は、常にぐるぐるまつりが行われていればすごく楽しい商店街になると思う。それはできなくないと思ってます。

市長 地元の方の意見はどうですか？

市民 今は日本全国こんな景気ですから、商店街の皆さんというのは、何か上から落とされて強制されるのは非常に負担でしかない。このぐるぐるまつりがなんでここまでこれたかというのは、多分やる人間が面白がっているからなんです。やる人間が楽しくないイベントは絶対に成功しないというのが私の持論で、上から落とされて、「なんだこれ」と言いながら行うものは全てにおいて失敗なのかな。だからみんなが盛り上げて、面白いからやろうよって巻き込んできたら、こんなに 86 店も集まった。これは非常にすごいことで、参加店がイベントに対して理解を示し、みんなが楽しんでいるんです。だからここまできちゃったんだろうな。全国に数多ある町おこしのイベントの中でも面白い事例なのかなと思います。

行政の方へお願いしたいことは、我々の発信力というのは底が知れていますから、行政さんからいろんなところへ広報してくれると大きなイベントになっていくのではとすごい考えますね。

市長 今、行政主導では「みうら夜市」というものを商店街でやっているのですが、市の方でセッティングし、予算も付け、一大イベントとして成長しましたけれど、やっぱり商店街の皆さんが自分たちで商店街を盛り上げようっていう感じではないです。「市がやるからつきあおうかな」とひしひし感じます。なので、新しい発想で動いていただける活動というのはこれから大事だと思いますし、商店街の 86 店舗がこうやって参加してくれるというのも画期的なことです。

市が広報に協力するとかはできると思います。お客さんを呼ぼうとか、商店街の活性化とかっていう観光施策を担当している部署ともう少し連携できないかなというところが、今の悩みです。今回の MISAKI ぐるぐる春まつりは規模が大きくなってきて、ぜひとも成功してもらいたいです。もう 1 週間ほどしかありませんが、これからでもご希望があればサポートいたします。次に向けてでもかまいませんし、ぜひお話をいただきたいと思います。何か困ってることなどありませんか？

市民 やっぱり広告宣伝費がかかってしまいます。この人数だけでやっているものですが、SNS や知り合いのラジオに出演させてもらったりもしていますが、底が知れています。他のイベントだと、京急さんの中刷りに出ていたりあるじゃないですか。1 度バスの後ろに広告を出そうと調べたんです。でも市内に 1 台しか回せないとかいろいろ問題があったので断念しました。なので、もしそこがカバーしてもらえらるでしたら、いろいろ広がりがでると思います。

市長 例えば、京急さんはみさきまぐろきっぷを大々的に宣伝しているじゃないですか。それに一緒に載せるというのはどうなんでしょうか。みさきまぐろきっぷの宣伝に

「MISAKI ぐるぐる春まつりもやっていますよ」みたいに。市が関連するイベントでは、港町まつり、みうら夜市、三浦国際市民マラソンや桜まつりなど、そういったイベントは一緒にやっているんです。だからそこに加わってきてもらうのはどうなんでしょう。ただ、やはり皆さんの新しい取り組みじゃないですか。なので一緒に巻き込む必要はないと思いますけれど、市としてはサポートしていきます。お客さんも来ていただけますし、滞在時間を増やすという同じ目的ですから、市としてももう少し調整させていただきたいと思っています。

市民

1 回目は本当に小さな手作りから始まって、なんとなく声をかけてやっていた人も、今度はちゃんとやってみようと思ってきました。しかし素人と手作りのお祭りだったので、ここから先のイベントを大きくする術が分かっていなくて、やはりどうしても広告費とかが問題になっています。どういう風にしたらいいのかも暗中模索の状態です。

私も MISAKI MARKET に関わらせてもらって三崎に来ているうちに、なんで皆こんなにさっさと帰ってしまうんだろういつも思っていました。以前うらりの前で作品を販売させてもらったことがあるのですが、その日はウクレレのイベントがあった日で、人がいっぱいいました。しかし、私の作品に魅力がなかったのかもしれませんが、人が全然立ち止まらなかったんです。みさきまぐろきっぷで収まっているので、お財布の紐が固いです。本当にみさきまぐろきっぷさえあれば、今日は一銭もお金を使わないで済むという感覚で、皆お昼に帰っちゃうんだなって感じました。それがなんとなく悲しいです。下町の方の少しさびれている雰囲気もまたいい感じだし、そこの中にポツポツとある新しいお店が面白かったりオシャレであったりするところもあるので、そっちも知ってほしいです。けれど、うり側と商店街側が完全に分かれているように見えてしまう。

市民

こちらには生活圏のような、観光客が入っていけない雰囲気があります。観光で来たらまずうりを目指してしまうので、背を向けてしまうんです。「あっちは生活圏だから観光の方ではない」という空気がある。たまたまくろば亭さんとガラス細工と手ぬぐいのお店がみさきまぐろきっぷと提携しているので、そこにはお客さんが来るんです。しかし皆さん振り返りもせず、お店の存在にも気づかずにバスに乗って帰ってしまう印象があるので、それをどうにかしたいです。「面白いところもあって、素敵な人がいっぱいいるんだけどな」と思いながら見ています。

今回お店に挨拶をさせてもらったんですけど、自分たちからは動かないけれど、若い子たちが何かしてくれようとしているってことに対しては皆さん嬉しそうでした。イベントに慣れてらっしゃる感じもあったけれど、「1000 円払えば何かやってくれる」という感覚で参加してくれるが、まずこのお祭りがなんなのかということに、深くは入れてない参加店さんが多いと思います。

市長 みさきまぐろきっぷは京急さんが費用を全部負担してくれているんです。これを作ろうってなったときには、実はこんなに当たるとは思っていませんでした。平日もあれだけお客さんが来てくれているのは、大成功だって喜んでいるんですけど、それにはそれだけの問題点も出てくるんです。加わりたい店舗の方のニーズに全部答えられなかったり、うらりの近辺で人の流れが終わってしまうなどあります。

市民 実際に商店街の中に入ったとしても、自分が観光目線で見ると結構シャッターが閉まっているところがあって、閑散として寂しい街だなんて感じてしまいます。しかし、知れば知るほど素敵なお店がいっぱいあるし、1つ1つシャッターが開いて、人が集まるような何かができるんじゃないかなと思います。

市民 人が面白そうと思えるお店があったり、何か体験できるものであるとか、買えるものであるとか、観光客がわざわざ行きたいと思うものが増えていくと、流れも変わってくると思います。ただ、手放した古い建物を壊して新しいのを作り、雰囲気が変わることはもったいないと思います。とても面白い街並みが残っているので、そこを有効活用できるような何かを考えられたらいいな。

市長 今ふるさと納税というものがあり、それに体験メニューというのをいろいろ集めています。例えば「三崎の下町商店街でいろいろ体験できるようなワークショップに参加できますよ」みたいなもので、メニューは作れますか？商品に換算すると5千円ぐらいです。1万円寄付してもらって5千円ぐらい還元するんです。例えばマグロのお店屋さんについて提携してもらい、その中からマグロがほしいとか、野菜がほしいとかって、お店をお客さんがチョイスします。もしメニューにあれば、加えることは簡単にできます。

市民 こっちのやり方でいいんですとできます。例えば体験券みたいなものを作って、1日三崎下町体験コースチケットとかって、やり方としてはできると思います。

市長 そういうのをメニューに入れるというのは1つの手かもしれませんね。

市民 MISAKI ぐるぐる春まつりを下町商店街でやらせてもらってるというのを、我々はすごく感謝しています。転入者が作ったイベントが、こんな大がかりになっても誰一人文句も言わずやらせてもらっていることは非常に嬉しいです。だからこれをもう少し、各店が私たちと同じくらいの気持ちになればますますよくなると思うんです。そうしたらこんなイベントをやらなくても、それが普通になると思います。

市民 毎回参加店の方にはお願いするのは、無理をしなくていいということです。スタンプラリーのハンコを押すだけしかできないところは、通常営業でかまいませんし、でき

るお店に関しては、「ぐるぐる祭り特別メニューを出すよ」「割引をするよ」と自発的に企画を考えてくださり、すごいありがたい。景品についても出せるところは出し、出せないところは出さない。しかし、参加店ではないのに景品を出してくださる方も毎回いて、ぐるぐるまつりを面白がってくださっています。

だんだん回数を積み重ねていくうちに、「ぐるぐるまつりの時にあれをやってよかったから、もう1回やってみよう」と、そういったきっかけになっていけば面白くなっていくのではないのでしょうか。

市長 わかりました。情報は広報紙「三浦市民」の方に載せたりもできます。事務局に確認しますが、市のホームページには既に載っています？開催日よりもっと前に広報しなくてはいけないから、明日にでもすぐにホームページに載せること。

事務局 はい。現在ホームページには載せていませんが、イベントカレンダーにはすぐに載せることができます。神奈川新聞にも今月記事を載せる予定でございます。18日の土曜日です。

市長 やはりこれだけの参加店の方がいらっしゃるの、温度差とかもありますか？

市民 あります。ぐるぐるまつりに限らず、イベントと言われたら「1000円出せばいいんでしょ」という感じのお店もありました。これがどういうお祭りかよく分からないけれど、「何かやろうとしているなら、いつも通り払えばいいんでしょ」と、協力する気持ちはあるけれど、そこはもう一步入ってほしい気持ちがしました。

市民 それは回を重ねていくことでしか解決できないことだと思います。1回やって終わりではなくて、継続することがすごく大事だと思います。

市民 続けてみようって言った理由が、みんな自分たちの利益なんてまったく考えていないことです。本当に「盛り上げたい」「楽しみたい」だけだったので、それだけでここまでくるということがすごい。

周知していくことに関してはすごく難しかったです。東京方面からは来れるが、湘南方面からひっぱれないんです。感覚としては似ているんですが。海が近く、少しオシャレに見えるレトロなものに興味があったり、自然に興味がある方が住んでいる地域なので、オシャレでお金を持っている人も来てくれる所にしたいです。しかし、湘南方面からは1回横浜に出てから来なければいけないという問題があり、相当興味がないと来てもらえません。その辺からも見えているエリアなのに、そっちの交通手段が何かないかなと思っています。

市民 鎌倉方面から三崎港までのバスが、朝と夕方に1本ずつくらいほしいです。あと、

三崎は泊まる場所が少ないと思います。遊んで飲んで、泊まりたいのに泊まらないんです。ご飯が食べられて泊まれる旅館はあるけれど、お店で飲みたかったりすると、ビジネスホテル的な所もないし、宿泊施設が欲しい。最近は少し増えてきましたが、5千円以下で泊まれたら、美味しいお店とか面白いお店も多いので、はしごができて次の日の朝市も楽しめるのではないのでしょうか。

こういうお祭りでいろんなお店を知ったら、個人で来て1人でぐるぐるするのも面白いと思います。飲んで帰るとなると、バスと電車のことを考えなくてはいけなくて、時間制限がある中では楽しめないです。

市民 ゲストハウスまでいかなくても、民泊の方で三崎って動きはないですか？

市長 三崎地区の民泊は考えられると思っています。それ以外の地域は民宿など、事業者がいるので触るつもりはありません。ただ、三崎は民泊でないと対応できないので、そこはやろうと思っています。

市民 以前、三崎は民泊の文化なんだと聞いたことがあります。船員さんたちが来るたびに、仲良くなった人が自分の家に泊まれという文化だそうです。そういう文化があるのであれば、取り入れられないのでしょうか。

市長 基本的に滞在型の宿泊施設に競合する場所というのは、民泊を考えるつもりはありません。おっしゃる通り、三崎はゲストハウスみたいなものはニーズがあります。三浦市の民宿のように、民宿で枕投げができるというのはけっこう受けがいいと聞いています。

今回参加していただいているお店は、イベントだから出店するという割り合いはどうですか？既存のお店があるけれど。

市民 体験的なものに関しては、市外から出店してくれる人が多いです。

市長 例えば、週末に皆さんがいらっしゃって、ワークショップなどが体験できる「ぐるぐるストリート」みたいなものではできますか？全店そろえることは大変でしょうけど。

市民 場所さえあれば、何店かは声をかければできます。しかしそのたびに会場費がかかるのであれば、やはり自腹を切ることが多くなってしまいます。

そういうのは、三崎小学校の空き教室とか使えますか？例えば週末だけとか、月に1回だけとか。

市長 小学校は難しいのではないのでしょうか。市役所第2分館の部屋（旧三崎中学校）も、

フリースペースとして使ってはいけないという建築基準法があって難しいんですが、体育館を使うとかはできると思います。

市民 学校みたいな雰囲気の中で勉強してとか、体験してとかって感覚はすごく強いから面白いと思います。それはお借りするのにお金はかからないんですか？

事務局 1時間200円とかですかね。

市長 例えば魚市場の会議室を使うとかはできると思います。公共施設を使うというのはできますが、学校は難しいと思います。ここの2階とか3階とかは空いてるので、どんどん使えないかと話しているんですけど、建築基準法が問題です。要は、学校施設というのは、一般的な公民館機能のものとは違います。不特定多数の人たちが入るには、バリアフリーになっていなければいけないとか、浄化槽がきちんと整備されていないといけないなどの決まりがあるのです。

それにしても、こういう市民活動のイベントというのは、市としては大変喜ばしいことです。市としてできる宣伝、広報みたいなこと、あとはふるさと納税のメニューとか、そういうものは検討します。

来てくれるお客さんはどういう方々なんですか？層というかターゲットは。

市民 今回のターゲットはファミリーにしています。ワンちゃんとかの絡みも増えているので、そういう人たちも今回は来るかと思います。アンケートをとると、三崎の地元の人でも来てるし、三崎以外の市内の人でも結構来ています。知らないで来ている人も結構います。ぐるぐるまつりを目的に来た人の数までは追求しきれていませんが、来た人みんなにチラシを配っています。バスが着いたら皆に配って、下町の方まで来てくださってずっと声をかけています。「これからどうする」って声が聞こえたときに、こんなのやってますよと声をかけると意外と夕方までいてくれるんです。その後ばったり会って、楽しかったですって言うってくれる方も前回はいらしたので、草の根作戦なんです。受付のところに人をいっぱい集めて、とにかくバスが来たら行っていました。

市民 前回はうらり側でちんどん屋の恰好をして呼び込みもしました。音楽を流しながら、商店街でこんなのやってますよって誘導したんです。

これは私だけが思っていることかもしれませんが、こういうイベントは、外の方を三崎に呼ぶという側面もあるが、市内の人に来てもらう側面もあります。商店街でいろんな人の話を聞くと、三崎以外の人たち、いわゆる初声地区と上宮田地区と呼ばれている地区の人たちが下町に全然来ていないということが分かりました。ここに出ているご飯屋さんに1度も来ていないという人も結構耳にしています。これはこのイベントだけのことじゃなくて、下町商店街のことを考えると、同じ三浦市民の人たちに

来てもらうようにすれば、相当潤うのではないかと考えています。多分三浦市としてもそこがだいぶ検討材料になっているのではないかなという気がします。3 地区のバランスというか、下町商店街が 1 番元気でなくてはだめだというのが持論で、そのために何ができるのか考えています。なので、そこは我々ではなく、行政の方で何かできることがあるのであればやってほしいと思っています。

市長

行政として、市内の人の流れということをテーマに考えたことがありません。例えば初声とか南下浦の人に、三崎に買い物に行ってくれだとか、三崎で遊んでほしいという話題にはなっていません。ただ、だれかお客さんが来たときには、やはり皆三崎にお客さんを連れてきます。初声や南下浦の人たちにとっても三崎の港町がメインなんです。普段は何か食べに来たりというのはあるかもしれないけれど、散策することはまずないのではないのでしょうか。

今神奈川県では、マグカルに関係に力を入れています。マグネットカルチャーというものです。県知事がマグネットという言葉が好きで、市民文化というのを進めようと言うので、うちはまちカルで先にやってますよって言ったことがあるんです。

市民

まちカルも 1 つ参加したことがあります、町の中のマグロの関係のところを巡って、見物して食事もして、三崎のことを知るといったものです。私が参加したのは、大漁旗のワークショップをやり、三崎の街ってこんな街なんだって知るものでした。面白かったが、2 年くらいであつという間に終わってしまって、これを続ければいいのになんでだろうと思いました。事業としていつもやっていれば、来た人もとりあえずそれにのっかれば、三崎のことを手っ取り早く知れて、そこでしか体験できないことができ、すごく力になると思います。

市長

今日のお話は、皆さんの新しい動きに感謝を申し上げます。市として、予算を使うということは、発想としてはあまりないのですが、一緒にいろいろとやらせていただくような動きは、今まで以上にさせていただくようにします。今は市民活動の窓口として市民協働課が関わっていますけども、もう少し市役所全体で関わられるようにしたいと思います。

まずは 25 日、26 日の本番を盛り上げて、次の予定をどうなさるのか、またご相談すればいいのかな。当日は成功させましょう。

※ 公表については了承を得ております。